

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほっぶ東区		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日		～ 令和8年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 15日		～ 令和8年 1月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づいた支援が概ね適切に行われていること	アセスメントを行った上で個別支援計画を作成し、職員間で共有しながら支援を行っている。支援後の記録やモニタリングを通じて、支援内容の妥当性を確認している。	モニタリングや振り返りの機会をより体系的に整理し、計画見直しの視点を職員間でさらに共有していく。
2	保護者との日常的な情報共有と信頼関係の構築ができていること	送迎時や連絡帳等を通じて、こどもの様子や体調、成長の変化について保護者と情報共有を行っている。相談への対応についても体制を整えている。	面談等の機会を活用し、保護者が相談しやすい環境づくりを継続するとともに、情報共有の方法を整理していく。
3	こどもが安心して通所できる環境が整っていること	モニタリングや振り返りの機会をより体系的に整理し、計画見直しの視点を職員間でさらに共有していく。	環境構成や構造化について職員間で再確認し、こども一人ひとりにとってより分かりやすい環境づくりを検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務改善に関する職員の参画や振り返りが十分とは言えない点	振り返りや打合せの実施状況にばらつきがあり、業務改善の取組が一部の職員に偏っている可能性がある。	定期的なミーティングの時間を確保し、業務改善や振り返りに全職員が参加できる体制づくりを進めていく。
2	活動プログラムの工夫や多様性について評価が分かれている点	日々の運営の中で、活動内容が固定化していると感じる職員・保護者が一定数いると考えられる。	活動プログラムの振り返りを行い、こどもの興味や発達段階に応じた活動内容の見直しを行っていく。
3	非常時対応や安全確保に関する周知が十分に伝わっていない点	マニュアルや訓練は実施しているものの、保護者への説明や理解が十分でない部分があると考えられる。	非常時対応や安全計画について、通信や面談等を通じて保護者への周知方法を見直し、理解促進に努めていく。